

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成28年3月17日(2016.3.17)

【公開番号】特開2014-202778(P2014-202778A)

【公開日】平成26年10月27日(2014.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2014-059

【出願番号】特願2013-75883(P2013-75883)

【国際特許分類】

G 09 G 3/30 (2006.01)

G 09 G 3/20 (2006.01)

H 01 L 51/50 (2006.01)

【F I】

G 09 G 3/30 K

G 09 G 3/30 J

G 09 G 3/20 6 2 4 B

G 09 G 3/20 6 1 1 J

G 09 G 3/20 6 1 1 H

G 09 G 3/20 6 1 2 E

G 09 G 3/20 6 4 2 A

H 05 B 33/14 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月27日(2016.1.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

このようにして、電界効果トランジスタTR₁₂のドレイン電圧は、基準電圧V_{Ref}に収束し、電界効果トランジスタTR₁₂のドレインの電圧は変化しなくなる。これは、電界効果トランジスタTR₁₃のソースドレイン電流と電流源101の電流が同じ値になったことを意味する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

上記の定電圧回路において、pチャネル型の電界効果トランジスタTR₂₆、TR₂₇、TR₂₈及びnチャネル型の電界効果トランジスタTR₂₉、TR₃₀が、正電位側の電源V_{dd}と低電位側の電源GNDとの間に直列に接続されている。電界効果トランジスタTR₂₆は、ゲート電極が定電流源トランジスタTR₂₅のゲート電極に接続されている。電界効果トランジスタTR₂₇は、インバータ回路131で反転された反転走査信号をゲート入力として、走査信号のアクティブ区間にオン状態になり、定電圧回路を作動状態とする。電界効果トランジスタTR₂₆、TR₂₈、TR₂₉、TR₃₀は、ゲート電極とドレイン電極とが共通に接続されたダイオード接続構成となっている。